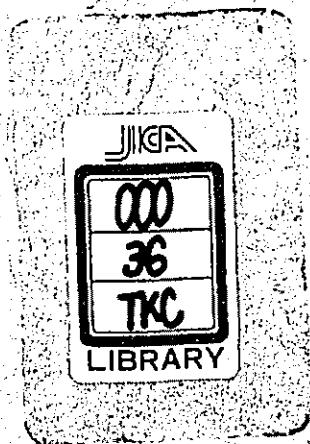


平成2年度
業務報告書

平成3年5月



国際協力事業団
神奈川国際水産研修センター

JICA LIBRARY



1090399(5)

22345

国際協力事業団

22345

はじめに

神奈川国際水産研修センターは設立当初より、水産大学、国及び県の水産研究機関、民間企業、地元の漁業協同組合等関係機関の協力を得て、当センターにおいて研修員に対し直接研修を行う体制をとり、技術指導施設と宿泊機能を兼ね備えた、日本で唯一の国際水産研修センターである。

平成2年度は集団研修5コース50名、個別研修員27名（プロトコール訪問、一日研修、集団への合流を除く）計77名を受入れ、三崎国際水産研修会館（昭和36年4月開設）時代からの集団コース修了者の累計は99ヶ国1,073名に達した。

平成2年度の業務実績を振り返ってみると、次の事項が特筆すべきものとして掲げられる。

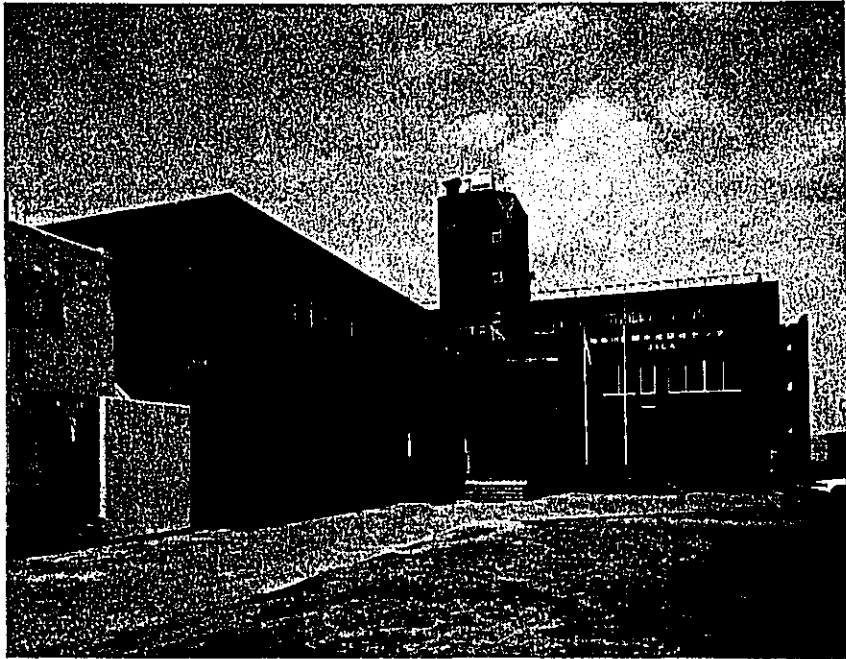
- (1) 沿岸漁具漁法II(理論)コースを平成元年度には従来の5.5ヶ月を2.5ヶ月に短縮し、引き続き平成2年度には名称も漁具漁法学コースと改め、特定トピックの理論を中心とするカリキュラムとした。
- (2) 個別研修員の一層の受入れを図った。平成元年度に続き、中国支部所管の集団コース「エビ増養殖」の導入研修を平成2年度も継続し当センターで約10日間実施した。
- (3) 神奈川国際水産研修センター長期運営1991～2000の試案検討を開始した。

研修員受入れ事業の大巾な拡大が求められる中であって、永年培ってきた研修ノウハウを有する直営センターの役割が今見直される機運にあり、当センターの将来発展を期してなお一層の業務努力を行う所存である。

最後に当センターの研修に多大のご支援、ご協力を賜わった関係者の方々に心から謝意を表する次第である。

平成3年5月

国際協力事業団
神奈川国際水産研修センター
所長 佐伯 靖彦



神奈川県国際水産研修センター全景

平成2年度 業務報告書

目次

はじめに	
写 真	
Ⅰ. 神奈川国際水産研修センターの概要	1
1. 沿 革	1
2. 施設概要	1
3. 組織と分掌	1
Ⅱ. 平成2年度業務実績	3
1. 集団研修コース実績一覧	3
2. 集団研修コース	5
3. 個別研修コース	21
4. オリエンテーション	24
5. 日本語研修	25
6. 研修員の福利・厚生	28
(1) 厚生活動、国際交流等	28
(2) 健康管理	29
7. 関連業務	30
(1) 帰国研修員のフォローアップ	30
(2) 第三国研修支援	31
(3) 青年海外協力隊員派遣前技術補完研修	35
(4) 便宜供与・広報	35
(5) 視聴覚教材開発	36
8. 施設の管理・運営等	37
(1) 宿泊管理と実績	37
(2) 施設の管理・運営	37
(3) 施設の整備	37
資 料	
資料-1 平成2年度宿泊利用実績	38
資料-2 コース別年度別研修員受入実績	39
資料-3 国別年度別コース別研修員受入実績	40

I. 神奈川県国際水産研修センターの概要

1. 沿革

神奈川県国際水産研修センター（英文名-Kanagawa International Fisheries Training Centre：略称KIFTC）は、昭和36年4月三浦市諏訪町に当事業団の前々身の一つであった（社）アジア協会設立の三崎国際水産研修会館として発足し、昭和49年4月に神奈川県国際水産研修センターと改称し現在地に移転・拡充された。

当センターは設立当初より、水産大学、国及び県の水産試験研究機関、地元の漁業協同組合等の協力を得て、当センターにおいて研修員に対し直接研修を行う体制をとり、水産の技術指導施設と宿泊機能を兼ね備えた、日本で唯一の国際水産研修センターである。

2. 施設概要

① 所在地：神奈川県横須賀市長井5-25-1 〒238-03

TEL.0468-57-2251 FAX.0468-57-2254

② 建物規模：

敷地面積：3,069㎡

建築面積：1,196㎡

延床面積：2,729㎡

構造：鉄筋コンクリート4階建

③ 主要施設：

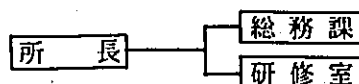
ア. 管理施設（事務室、会議室、講堂）

イ. 宿泊施設（シングルルーム33室、和室1室、食堂、ロビー、ラウンジ）

ウ. 研修施設（研修室3室、漁具製作室、養殖実験実習棟、エンジン実習室、回流水槽室、実習船2、展示ホール、図書資料室）

3. 組織と分掌

① 組織：



② 事務分掌：

総務課 …… 研修員の宿泊管理、研修施設の運営管理、経理・庶務
研修員の福利厚生・生活指導

研修室 …… 研修計画・実施・評価等の業務、実習船・研修設備の管理
日本語研修、研修監理員に関する業務

Ⅱ. 平成2年度業務実績

1. 集団研修コース実績一覧

平成2年度においては、平成元年度に受入れた養殖一般、小型漁船の船体・機関保守の2コース計20名の研修を継続して実施するとともに、平成2年度は5コースの集団研修を実施しこれらコースで50名の研修員を受入れた。

また、各コースとも研修終了後、研修員による評価、指導講師陣及び当センター関係者の評価の結果をもとに、カリキュラム内容、研修員の資格、受入れ条件、開発途上国のニーズと我方の現状を勘案した研修コースのあり方等について関係者と検討し、その結果必要な変更、改善を行うなど研修コースの充実、向上をはかった。

なお、平成2年度において、沿岸漁具漁法II(理論)コースは漁具漁法学コース(Fishing Science and Technology)と改めスタートした。

平成2年度 集団研修コース実績一覧表

No (実施回数)	平成2年度研修コース名(英名)	定員	要員	必習員	要入人数	要入期間 (総日数)	研修期間	開式・閉式	集中日本研修期間 (視察研修期間)
1 (11)	養殖一般 (General Aquaculture)	10	13	10	11 (含む要員1)	2.1.8~2.6.25 (169)	2.1.16~2.6.21	1/22・6/20	1/24~2/3 (2/1~4/25)
2 (8)	小型漁船の船体・機関保守 (Hull and Engine Maintenance of Small Fishing Boat)	7	12	10	9 (含む要員1)	2.1.8~2.6.25 (169)	2.1.16~2.6.21	1/22・6/20	1/24~2/3 (2/1~4/25)
		17	25	20	20 (含む要員2)				
No (実施回数)	平成2年度研修コース名(英名)	定員	要員	必習員	要入人数	要入期間 (総日数)	研修期間	開式・閉式	集中日本研修期間 (視察研修期間)
3 (1)	沿岸漁業技術 (Coastal Fishing Technology)	12	14	11	13 (含む要員1、 要員外1)	2.4.10~2.12.17 (252)	2.4.16~2.12.13	4/23・12/13	5/7~5/17 (5/21~10/31)
4 (17)	漁業協同組合 (Fishery Cooperatives)	9	11	10	10 (含む要員1、 要員外0)	2.7.2~2.12.17 (169)	2.7.9~2.12.13	7/16・12/13	7/17~7/27 (7/30~10/31)
5 (1)	漁具漁庄学 (Fishing Science and Technology)	8	11	8	8	3.1.7~3.3.22 (75)	3.1.14~3.3.18	1/21・3/18	1/22~2/2 (2/4~3/8)
6 (12)	養殖一般 (General Aquaculture)	10	14	9	9	3.1.7~3.6.24 (169)	3.1.14~3.6.19	1/21・6/19	1/22~2/2 (2/4~4/26)
7 (9)	小型漁船の船体・機関保守 (Hull and Engine Maintenance of Small Fishing Boat)	10	13	11	10 (含む要員1)	3.1.7~3.6.24 (169)	3.1.14~3.6.19	1/21・6/19	1/22~2/2 (2/4~4/26)
		49	63	49	50 (含む要員3 要員外1)				

注：要員とは個別研修員のコース自費、要員外とは要員外の要員から

2. 集団研修コース

① 平成2年度 沿岸漁業技術コース実施概要

本部担当：板本 好孝

センター担当：野津 善男

(1) コース名

沿岸漁業技術

COASTAL FISHING TECHNOLOGY

(コースNo.172, コードA 0432)

(2) 研修期間

1990.4.10～1990.12.17 (5.7～5.17 日本語集中講座)

(3) 研修目的

日本の沿岸漁業の代表的な漁具漁法に関する基礎技術を特に実技にウエイトを置いて修得することを目的とする。開発途上国で漁具漁法分野の教育、指導、普及業務に従事する者を対象とする。

(4) 到達目標

日本の沿岸漁業を実技を通して出来るだけ体験させ、自国への導入の可能性を模索させると同時に指導、普及業務の遂行に役立たせる。

(5) 参加資格条件

- 1) 現在または将来、沿岸漁業の教育、指導、普及業務に従事する者。
- 2) 高校卒または同等の学力を有する者で当該分野における3年以上の実務経験を有する者。
- 3) 40才以下であること。

(6) プログラム概要

1) 研修項目

日本の水産業の概要

水産物利用加工概論

漁業協同組合概論

開発途上国の漁業概要

漁港の施設と管理

漁具材料

漁具製作の基礎

各種漁具漁法(理論・海上実習)

FRP漁船の保守(講義・実習)

漁船機関の保守(講義・実習)

漁業機器

2) 研修方法 (英語率)

講義	24.5% (100%)
漁具製作実習	28.8% (100%)
海上実習	18.5% (100%)
研修旅行、見学等	20.7%
カンントリー、スタディレポート発表会等	7.5% (100%)

(7) 受入実績

今年度					
定員	割当国	応募人数	応募国数	受入人数	受入国数
12	14	13	11	13	11
今年度までの実績					
設立年度	実施回数	受入人数	受入国数		
2年度	1	13	11		

今年度割当国：モルディヴ、モロッコ、チュニジア、カメルーン、赤道ギニア、
 サントメ・プリンシペ、ソマリア、コロンビア、キューバ、ドミニカ、
 ガイアナ、ペルー、セント・クリストファー・ネイビス、フィジー
 ※ 下線は応募のなかった国

割当外応募国：ガンビア、カーボヴェルデ

早期帰国者等：なし

(8) 実施体制

受入先：神奈川県国際水産研修センター (直轄)

研修指導者：野村 正恒

センター担当者：野津 善男

本部担当者：榎本 好孝

研修監理員：菅原 甫夫

所要経費	基準予算	実行予算	実行済額	差額
総額(千円)	13,349	16,588	13,230	3,358
人月数(人月)	108	108	108	0
経費/人月(千円)	123.6	153.6	122.5	

(9) 担当の所見

研修科目に対する研修員の興味はその国の漁業基盤に強く影響されており、自国に適應しやすい漁業、あるいは漁業開発プロジェクト等との関連で現在、或は将来必要とされる漁業に関する科目に集中している。

研修プログラムに関する今後の留意点は日本で行われている沿岸漁業の実態をさらに把握し、途上国の実情をも考慮しながら研修プログラムに加えられるような科目を増やすことが必要である。

(10) 改善・検討すべき課題

「沿岸漁業技術コース」の特徴は、講義と実習とをリンクさせ漁業技術が体得出来るように研修densityを高める必要があり、この点を考慮したカリキュラム作りが必要である。

開発途上国で行われている優秀漁業の紹介は、当コースの主要なテーマの一つであるが、バヤオ利用漁業に次ぐものを発掘するためにカントリーレポート等により新しい情報を収集していくことも必要である。

② 平成2年度 漁業協同組合コース実施概要

本部担当：榎本 好孝

センター担当：斎藤 宏

(1) コース名

漁業協同組合

FISHERY COOPERATIVES

(コースNo 170, コードA 0181)

(2) 研修期間

1990. 7. 2 ~ 1990. 12. 17 (7. 17 ~ 7. 27 日本語集中講座)

(3) 研修目的

漁業者の組織化、組合制度の確立等が十分に行われていない開発途上国の漁業組合指導者、行政官に対し、独自の発展を遂げてきた我国の漁業協同組合を紹介しながら必要基礎知識を修得させ、協同組合の発展に貢献しうる人材を育成することを目的とする。

(4) 到達目標

漁業並びに漁業協同組合に関する講義、演習、研修旅行等を通じて、漁業協同組合の重要性を広く認識させることによって、基礎理論を明らかにし当該国における漁業協同組合の組織化の充実、適正な運営管理につき、その課題を解決するための応用能力技法を習得させる。

(5) 参加資格条件

- 1) 大学卒または、同等の学力を有する者で当該分野における3年以上の実務経験を有する者。
- 2) 十分な英語能力を有する者。
- 3) 年齢は40才以下の者。

(6) プログラム概要

1) 研修項目

漁業概論

水産物流通論

協同組合原論

漁協の活動事業

水産金融・信用事業	漁業経営分析
漁業法・組合法	漁協と資源管理
協同組合簿記と会計	水産改良・普及事業

2) 研修方法 (英語率)

講義	50.0% (72%)
演習	10.0% (100%)
研修旅行、見学等	28.0%
カントリー、スタディレポート発表会等	12.0% (100%)

(7) 受入実績

今年度					
定員	割当国	応募人数	応募国数	受入人数	受入国数
9	11	11	11	10	10
今年度までの実績					
設立年度	実施回数	受入人数	受入国数		
49年度	17	164	44		

今年度割当国：フィリピン、タイ、インドネシア、ケニア、ナイジェリア、セネガル、
ギニア、ベナン、ウガンダ、コロンビア、パプア・ニューギニア

※ 下線は応募のなかった国

割当外応募国：バハレーン、コモロ (コモロは来日中止)

早期帰国者等：ケニア

(8) 実施体制

受 入 先：神奈川国際水産研修センター (直轄)

研 修 指 導 者：藤沢 光治

センター担当者：斎藤 宏

本部担当者：榎本 好孝

研 修 監 理 員：荘 健次

所要経費	基準予算	実行予算	実行済額	差 額
総 額(千円)	6,675	7,914	7,144	770
人 月 数(人月)	54	60	60	60
経費/人月(千円)	120	131	119	12

(9) 担当の所見

研修員は非常に勤勉で研修上特に問題はなかったが、当コースにおける研修員の能力の差にはいくぶんバラツキがみられた。これは、毎年のごとく専門知識のみならず英語力の欠如のため研修科目に対する理解の程度が低いことからであり、担当者としては、これら研修員にいかん指導するか苦労があった。

この点については、今後の研修員受入れ選択の段階で十分な検討をする必要があると思われた。

また、一般的に研修員は研修の修得でコースの研修内容を十分理解はしているも、自国にて大いに応用するための基礎学力、たとえば経済理論、基礎数学、統計学等に弱い面がうかがわれるので、今後は研修を進める中で夜間の時間を利用して、これら科目の補講を強化する必要があるだろう。

コース評価・反省会の際、研修員からExerciseならびにDiscussionをさらに多くという意見が出されたので、次年度にCase Study(事例的研究等)を講師陣の協力を得て行うよう考慮したい。

(10) 改善・検討すべき課題

- ・グループ別及びコースリーダーを含めてのDiscussion等の実施増。
- ・センター館内生活面のオリエンテーションの改善と強化。(規則・規律の周知徹底)
- ・講義では既存の知識の押し付け的でなく、事例的課題を多く取り入れた改善とレベルアップ。
- ・講義評価の低い科目の教授法の改善。(若年層の講師登用等)
- ・日本語研修の研修方法の改善と検討。(集中講義での平仮名、カタカナ書きの指導方法等)
- ・図書資料の整備と新刊図書の補充。

③ 平成2年度 漁具漁法学コース実施概要

本部担当：長山 瑞穂

センター担当：三国 成晃

(1) コース名

漁具漁法学

FISHING SCIENCE AND TECHNOLOGY

(コースNo 171, コードA 0215)

(2) 研修期間

1991. 1. 7 ~ 1991. 3. 22 (1. 22 ~ 3. 8 日本語集中講座)

(3) 研修目的

トロール、刺網を教材として、漁具材料、漁具設計・製作、漁法について専門的な技術・知識を体系的に理解する。

また、漁具漁法改良に必要な関連分野の一般知識を修得する。

(4) 到達目標

刺網、トロール漁具の設計、製作が独力で行え、自国に於ける漁業、特に漁具漁法分野の改良、普及に貢献することができる。

(5) 参加資格条件

- 1) 自国政府の推薦を受けていること。
- 2) 大学卒、又は同等の学力を有する者で現在、漁業分野の研究、教育、技術開発に従事していること。
- 3) 上記分野における5年以上の職歴を有し、研修終了後再びこの分野の業務に従事する予定であること。
- 4) 十分な英語能力を有する者。
- 5) 40才以下であること。
- 6) 健康であること。

(6) プログラム概要

1) 研修項目

漁具材料学、漁具設計学、漁具製作技術、漁法学
漁具材料実験、魚群行動学実験、漁具物理学実験

刺網製作、モデルトロール網製作

漁船概論、漁獲物処理概論、漁業経営概論、漁業インフラ概論

2) 研修方法 (英語率)

講義	46% (91%)
実験	7% (100%)
実習	15% (100%)
研修旅行、見学等	23% (50%)
スタディレポート準備・発表会等	9% (100%)

(7) 受入実績

今年度					
定員	割当国	応募人数	応募国数	受入人数	受入国数
8	11	11	8	8	8
今年度までの実績					
設立年度	実施回数	受入人数	受入国数		
元年度	2	18	15		

今年度割当国：バングラデシュ、インドネシア、マレーシア、モルディブ、

カメルーン、赤道ギニア、サントメ・プリンシペ、ブラジル、
コロンビア、ペルー、ソロモン

※ 下線は応募のなかった国

割当外応募国：なし

早期帰国者等：なし

(8) 実施体制

受入先：神奈川国際水産研修センター (直轄)

研修指導者：野村 正恒

センター担当者：三国 成晃

本部担当者：長山 瑞穂

研修監理員：本山歌日子

所要経費	基準予算	実行予算	実行済額	差 額
総 額(千円)	2,800	3,800	3,862	△ 62
人 月 数(人月)	24	24	24	0
経費/人月(千円)	120	159	161	△ 2

(9) 担当の所見

本コースは昨年度、期間短縮（6ヶ月→2.5ヶ月）及び内容変更（定置網、トロールの専修）が行われたばかりであり、今年度も前回の評価を参考に、引き続き内容の検討を行った。

前回、問題とされた点はコース内容に適合した研修員の参加が少なかったことである。

今回の割当国についても、同様の傾向があったため、対象漁具の定置網を刺網に変更し、また、コース名が漁具漁法学と変更したのに伴い、同分野に最低限必要な理論的講義と実験を設定した。

同時に、関連する科目についても広くとりいれ、研修員の幅広いレベル及びニーズに対応できるよう努力した。

そのため、スケジュールがきつくなり、また、スタディレポート作成にかかるコースリーダーの負担が増加した。

研修員の評価はおおむね高く、また、彼らのスタディレポートも満足できる水準に達していると判断されるため、今回のプログラムは大枠では適当と考えられる。

しかし、今回初めて依頼した講師、見学先も多く、関連資材の準備、各講義等の連係が必ずしも十分でなかった点が来年度への課題として残った。

(10) 改善・検討すべき課題（箇条書き）

1) コース大幅改編の可能性：

本コースは沿岸漁業普及コースから分割改編された沿岸漁具漁法理論コースが、もう一方の実技コースとのコース内容及び目的を明確に分離するために再改編されたものであり、従来よりある程度の漁業レベルを持つ国を対象としている。（それ以外については沿岸漁業技術コースで対応できる。）

しかし、一般に漁業の進んだ国は工業化が進行中であり、先方政府（国家開

発部局)の研修優先順位では漁業理論分野が高く位置付けられていない。

今回は研修員のレベルも高く、研修の対象範囲も広げたことによりある程度の成果を得ることができたが、このような基本的構造に変化は無く、将来的には研修内容と研修員の興味・レベルの不適合という困難な状況に直面する可能性が大きいと考えられる。

そのため、水産政策、水産資源等、水産がある程度進んだ国のニーズに適合したコースへの改編及び理論的分野の沿岸漁業技術コースへの編入等、本コースの取扱をセンターレベルで検討するべきである。

2) スタディレポートの取扱い：

スタディレポートは講義、実験、実習、視察による受動的な研修に対し、研修員の自主性による研修と位置付けられており、このレポートを通じて修得した知識を完全に自身のものにできるという効果が期待できる。

しかし、その作業量は少なくなく、ハードスケジュールの要因となっており、とともに、関連文献、参考資料が少ないため単なる教科書の書き写しに終わるケース、一般論に終始し、自国の漁業への応用が期待できない点等の問題がある。

来年度は応急措置として文献資料の整理については実施する必要がある。

④ 平成2年度 養殖一般コース実施概要

本部担当：長山 瑞穂

センター担当：吉田 勝美

(1) コース名

養殖一般

GENERAL AQUACULTURE

(コース№ 173, コードA 0236)

(2) 研修期間

1991. 1. 7 ~ 1991. 6. 24 (1. 22 ~ 2. 2 日本語集中講座)

(3) 研修目的

開発途上国の水産養殖分野において普及、教育及び研究に携わっている者を対象として、当該分野に関する一般知識及び技術を修得させ、その上で自国の水産養殖開発に技術的見地から貢献出来る能力を開発する。

(4) 到達目標

研修を通し養殖に共通する問題を広く認識させ、今後自国の養殖開発普及に要求される飼料、水質、飼育方法の技術的問題に対し具体的な開発計画を策定しうる能力を養うことを目標とする。

(5) 参加資格条件

- 1) 大学卒もしくは同等の学力を有し、当該分野で2年以上の実務経験を有する者。
- 2) 十分な英語能力を有する者 (TOEFL 500 点以上が望ましい)。
- 3) 35 才以下で、心身とも健康で研修に支障をきたさない者。
- 4) カントリーレポートを提出すること。

(6) プログラム概要

1) 研修項目

水産・養殖一般

種苗生産と生物飼料

水族栄養学

水質管理

養殖各論 (水域・対象種別)

魚類生理学

魚病学

養殖工学

2) 研修方法 (英語率)

講 義	34.6% (80%)
実 習	39.9% (95%)
見学 (研修旅行等)	23.9%
カンントリーレポート発表会	0.8% (100%)
スタディレポート発表会	0.8% (100%)

(7) 受入実績

今 年 度					
定員	割当国	応募人数	応募国数	受入人数	受入国数
10	13	19	11	11	10
今年度までの実績					
設立年度	実施回数	受入人数	受入国数		
54年度	12	115	40		

今年度割当国：パキスタン、フィリピン、バハレーン、エジプト、モロッコ、
 カーボ・ヴェルデ、ニジュール、ブラジル、チリ、コロンビア、
ガイアナ、ホンデュラス、パナマ、ヴェネズエラ

※ 下線は応募のなかった国

割当外応募国：ニカラグァ

早期帰国者等：なし

(8) 実施体制

受 入 先：神奈川県国際水産研修センター (直轄)

研 修 指 導 者：加福竹一郎

センター担当者：吉田 勝美

本部担当者：長山 瑞穂

研 修 監 理 員：前田美禰子

所要経費	基準予算	実行予算	実行済額	差 額
総 額(千円)	3,338	5,551	4,256	1,295
	3,338	6,650	6,650	0
人 月 数(人月)	27	30	27	3
	27	27	27	0
経費/人月(千円)	124	185	158	27
	124	246	246	0

上段：平成3年1月～3月／下段：平成3年4月～6月

⑤ 平成2年度 小型漁船の船体・機関保守コース実施概要

本部担当:長山 瑞穂

センター担当:木村 秀雄

(1) コース名

小型漁船の船体・機関保守

HULL AND ENGINE MAINTENANCE OF SMALL FISHING BOAT

(コースNo 178, コードA 0277)

(2) 研修期間

1991. 1. 7 ~ 1991. 6. 24 (1. 22 ~ 2. 2 日本語集中講座)

(3) 研修目的

漁業経営に不可欠な漁船、特に沿岸漁業の主力となる50トン未満の小型動力漁船の建造、保守並びに機関の維持、修理に関する技術を修得することを目的とする。

開発途上国において当該分野の教育、指導及び漁船、試験、調査船等にて実務に
ついている者を対象とする。

(4) 到達目標

小型漁船の船体と機関の保守・管理に必要な基礎技術を実習を中心に修得させ、
当該分野に共通する技術上の諸問題に十分に対応でき得る能力を養わせる。

(5) 参加資格条件

- 1) 自国政府の推薦を受けていること。
- 2) 高等学校卒業または、それと同等程度の学力を有すること。
- 3) 関係分野における3年以上の職歴を有し、研修後再び関係分野の仕事に従事する
予定であること。
- 4) 25才以上40才以下であること。
- 5) 十分な英語力を有すること。
- 6) 心身ともに健康であること。

(6) プログラム概要

1) 研修項目

日本の漁業概要	漁船設計の基礎	FRP漁船	船外機
ディーゼル船外機	ディーゼル機関	船用電機	冷凍装置

ガス、電気溶接	機械工作	油圧機器等
2) 研修方法 (英語率)		
講義	29% (60%)	
実習	42% (55%)	
研修旅行、見学等	26%	
カントリーレポート、スタディレポート発表会、評価会	3%	

(7) 受入実績

今年度					
定員	割当国	応募人数	応募国数	受入人数	受入国数
10	13	14	11	10	10
今年度までの実績					
設立年度	実施回数	受入人数	受入国数		
57年度	9	71	38		

今年度割当国：バハレーン、モロッコ、赤道ギニア、ガンビア、象牙海岸、
 サントメ・プリンシペ、ザンビア、ニカラグア、ペルー、フィジー、
 パプア・ニューギニア、キリバス、ミクロネシア

※ 下線は応募のなかった国

割当外応募国：エチオピア (国際機関 FAO)

早期帰国者等：なし

(8) 実施体制

受入先：神奈川県国際水産研修センター (直轄)

研修指導者：草間喜代松

センター担当者：木村 秀雄

本部担当者：長山 瑞穂

研修監理員：荘 健次

所要経費	基準予算	実行予算	実行済額	差 額
総 額(千円)	3,708	4,519	4,519	0
	3,338	4,901	4,901	0
人 月 数(人月)	30	30	30	0
	27	27	27	0
経費/人月(千円)	124	151	151	0
	124	182	182	0

上段：平成3年1月～3月/下段：平成3年4月～6月

3. 個別研修コース

- (1) 平成2年度個別研修員の受入れ総人数は85名であった。内訳は個別研修24（うち集団コースへの合流4）、エビ増養殖コース導入研修7、プロトコール3、一日研修（含施設見学等）51であった。
- (2) 研修期間は、長期のコースで2.8ヶ月、中期コース1.3ヶ月であり、他は1日～1週間程度の研修を行った。
- (3) 当年度は、個別研修コース受入れ体制の一層の改善と整備を図り、その実施では外部専業漁船の乗船実習等が可能となった。（沖合トロール漁船等）
- (4) 平成2年度も昨年度同様に、中部支部所管の集団エビ増養殖コースの導入研修を実施した。

平成2年度 個別研修員受入実績表

日：五五五 K：神奈川センター

№	研修科目	氏名(区分)	国	年齢	研修科目No	現職	出身校	研修期間	研修内容	研修期間	研修内容	研修内容	備考
1	センター運営管理	Mr. Agustin C Casares	(E) ベル	36	8905341	パイタ産業センター 経営部長	2.3.12~2.4.11	2.4.4~2.4.5	研修一般	研修一般	C/P プロ研修		
2	水産資源	Mr. Munsh Mubadib	(D) モーリシャス	40	8904062	農業漁業天然資源省 研究員	2.3.19~2.4.10	2.4.6	研修一般	研修一般	研修一般		
3	農業開発	Mr. Haji S B Abu Bakar	(E) アレシア	44	8902311	ヤラゴ州 農業部長	2.3.23~2.4.12	2.4.10	研修一般	研修一般	研修一般		
4	水産資源	Mr. Antonio Fares S	(E) イタリヤ	34	8906197	シチリア州 農林大臣代	2.3.19~2.4.13	2.4.10	研修一般	研修一般	C/P 小休専門家		
5	船舶開発	Mr. Pedro Roma Ramos	(A) カンボジア	34	8903017	パルハ州農林漁業局 計画官	2.4.10~2.12.17	2.4.19~2.12.13	研修一般	研修一般	C/P 船舶専門家		
6	センター運営管理	Mr. Sean Van Nasally	(E) リベリア	34		The News社 編集長代理	2.4.15~2.4.26	2.4.19	研修一般	研修一般	特別研修関係の特		
7	エビ養殖	Mr. Faad Mustafa Jamal	(E) シンガポール	40	8902436	水産資源省 養殖主任	2.3.5~2.10.2	2.4.20	研修一般	研修一般	C/P 水産専門家		
8	船舶開発	Mr. Solyman Abed	(A) エジプト	34	8903005	船舶会社 ユニーク 船主	2.3.19~2.7.10	2.4.26~2.7.5	研修一般	研修一般	C/P 船舶専門家		
9	農業開発	Mr. Farid Yahoubi	(E) エジプト	30	8905479	国立水産生体工学研究所 研究員	2.3.16~2.7.3	2.5.1	研修一般	研修一般	研修一般		
10	エビ養殖	Mr. Miguel J.R. Terrasa	(E) スペイン	38	8905956	国・新技術推進研究所 職員	2.3.21~2.11.1	2.5.15	研修一般	研修一般	研修一般		
11	エビ養殖	Mr. Jorge A. M. Arzola	(E) スペイン	34	8902230	海洋科学技術開発研究所 部長	2.3.21~2.11.1	2.5.15	研修一般	研修一般	研修一般		
12	船舶開発	Mr. Miltonav Georgjevic	(D) ユーゴスラヴィア	41	8901289	科学技術大学 助手	2.5.22~2.8.22	2.5.29~2.8.13	研修一般	研修一般	研修一般		
13	農業・養殖	Mr. Jastin A. Al-Quamer	(E) パナマ	37	8905927	農業資源省 農業局長	2.5.14~2.6.3	2.5.31	研修一般	研修一般	研修一般		
14	農業・養殖	Mr. Essa A. Hussein E. A.	(A) パナマ	30	8905926	農業資源省 農業局長	2.7.2~2.12.17	2.7.9~2.12.13	研修一般	研修一般	研修一般		
15	農業・養殖	Mr. Ibrahim O. Mohamed	(E) エジプト	23	8901288	アスワダム湖開発庁農業資源センター	2.7.2~2.12.23	2.7.9~2.12.23	研修一般	研修一般	研修一般		
16	船舶開発	Mr. Juna B. Michalegaysa	(A) フィリピン	42	9001341	船務会社 船長	2.8.6~2.12.17	2.8.10~2.12.14	研修一般	研修一般	C/P 船舶専門家		
17	船舶開発	Mr. Abdoul Marfouk	(A) セネガル	50	8906681	農業資源省 農業局長	2.8.6~2.9.20	2.8.13~2.9.19	研修一般	研修一般	C/P 船舶専門家		
18	農業・養殖	Mr. Simco R.C. Tume	(A) ベル	34	9001751	パイタ農業資源センター 所長主任	2.8.7~2.12.16	2.8.13~2.12.13	研修一般	研修一般	C/P プロ研修		
19	農業・養殖	Mr. Mousadi Noureddine	(A) エジプト	33	9002641	パイタ農業資源センター 所長主任	2.8.13~2.9.23	2.8.14~2.9.19	研修一般	研修一般	C/P プロ研修		
20	農業・養殖	Mr. Abdoahdi Lakhmor	(A) エジプト	38	9002642	パイタ農業資源センター 所長主任	2.8.13~2.9.9	2.8.14~2.9.6	研修一般	研修一般	C/P プロ研修		

№	研修科目	氏名(区分)	国	年齢	研修日数	現職	全休受入	センター受入	研修日	研修員	備考
21	海洋調査分析	Mr. Jacques Saccoccia	(A) タイ	35	9001542	ラヨン軍艦海洋研究所 研究員	2. 8. 12 ~ 2. 12. 17	2. 8. 17 ~ 2. 12. 13	高橋 吉田	日比	C/P プロ研修
22	漁業管理方法	Mr. Wanniat T.	(A) タイ	40	9001541	ラヨン軍艦海洋研究所 主任調査員	2. 8. 20 ~ 2. 11. 10	2. 8. 24 ~ 2. 11. 8	高橋 吉田	新田	C/P プロ研修
23	漁業調査漁成	Mrs. Ratana Mueprakit	(A) タイ	33	9001540	ラヨン軍艦海洋研究所 生物研究員	2. 8. 20 ~ 2. 12. 17	2. 8. 24 ~ 2. 12. 13	高橋 吉田	新田	C/P プロ研修
24-28	水産設計コース	Mr. Lifeng Gui 他14名	(B) 中国他12ヶ国	25		国際協力開発局 他	2. 8. 13 ~ 2. 9. 30	2. 8. 27	野村 野村		研1、船団研修
29	沿岸漁業技術	Mr. Filinto S Dadas	(A) フランス・ブラジル	30	8507415	農業水産省水産局 沿岸漁業部長	2. 9. 1 ~ 2. 11. 30	2. 9. 4 ~ 2. 11. 27	高橋 野村	三島	C/P 農林省門下 船団一面合演
40	水産加工	Mr. August R.C. Vicente	(A) ベルギー	35	900162	水産加工センター 研究員	2. 9. 10 ~ 2. 12. 17	2. 9. 17 ~ 2. 12. 14	高橋 三島	小澤	C/P 第三国研修
41	船舶保守	Mr. Juan A. Saldaña	(A) ベルギー	30	9001750	パイタ漁業訓練センター 船医研修員	2. 9. 10 ~ 2. 12. 17	2. 9. 17 ~ 2. 12. 14	高橋 三島	中村	C/P プロ研修
42	船舶電機	Mr. Juan M.B. Merino	(A) ベルギー	23	9001749	パイタ漁業訓練センター 電機研修員	2. 9. 10 ~ 2. 12. 17	2. 9. 17 ~ 2. 12. 14	高橋 三島	中村	C/P プロ研修
43	漁業管理	Mr. Menah Gilbert	(A) ベナン	46	9002324	水産局長	2. 10. 3 ~ 2. 10. 20	2. 10. 6 ~ 2. 10. 19	高橋 西島		C/P 農林
44	漁業管理	Mr. Amos A. Khas	(A) イエメン	47	9001562	水産調査官 上級打漁工	2. 10. 9 ~ 2. 10. 24	2. 10. 10 ~ 2. 10. 22	高橋 吉田		C/P 水産省門下
45	漁業管理	Mr. Abdulla M. Abdan	(A) イエメン	40	9001563	農林研究センター 次長	2. 10. 9 ~ 2. 10. 24	2. 10. 10 ~ 2. 10. 22	高橋 吉田		C/P 水産省門下
46-50	センター施設見学	Mrs. Y. Nakamoto 他13名	(B) フランス	37		サンパワロ州公共事業省 技術企画官	2. 2. 5 ~ 2. 11. 24	2. 10. 18	大沢 江崎		英語センター 農林省水産コース
50-51	センター施設見学	Mr. Japin Tari 他1名	(B) グアテマラ	37		農業省 職員	2. 10. 16 ~ 2. 10. 25	2. 10. 23	小沢 吉田		外務省中国研修所研修員
52	水産食品包装	Mr. Tan Sen Min	(A) シンガポール	43	9001360	国立開発局 第一次生産部長	2. 11. 7 ~ 2. 12. 23	2. 11. 11 ~ 2. 12. 22	高橋 三島		英語センターSEAFDEC C/P
53-76	センター施設見学	Mrs. S. Chappes 他13名	(B) フランス	27		パラナ州農業普及公社 普及技術官	2. 2. 5 ~ 2. 11. 24	2. 11. 14	西村 石渡		英語センター 野鳥生コース
77	水産調査	Mrs. Ligia E. R. Salazar	(B) コロンビア	37	9005206	企業行動開発局 水産顧問	2. 11. 23 ~ 2. 12. 20	2. 12. 11 ~ 2. 12. 12	高橋 吉田		船団一般
78	船舶保守	Mr. Peter Opoti Chamo	(A) エチオピア	39	8901649	水産省船舶部 技術主任	3. 1. 7 ~ 3. 6. 24	3. 1. 7 ~ 3. 6. 24	高橋 木村		国際機関(FAO) 船団合演
79-85	エビ培養技術	Mr. Samir E.A. 他6名	(B) パレチン	28		農業調査官 漁業局 農林技術官	3. 3. 28 ~ 3. 7. 22	3. 3. 9 ~ 3. 3. 17	吉田 長山		中国研修所 船団コース

4. オリエンテーション

神奈川国際水産研修センターの集団コース参加のため来日した研修員はまず東京国際研修センターに入館し、全日のブリーフィングと3日間のゼネラルオリエンテーションを受ける。その後、神奈川国際水産研修センターに移動し、そこであらためて約1週間のオリエンテーションを受ける。

当センターのオリエンテーションは年3回実施された。

そのプログラムは次のとおり。

第1日目…移動、チェックイン、研修員・職員の紹介、施設見学、登録、町内案内

第2日目…館内生活に関するレギュレーション説明、研修プログラム説明、個別インタビュー、外人登録書類準備（含個別写真撮影）

第3日目…個別インタビュー（続き）、銀行口座開設手続、支給品供与、用品販売等

第4日目…横須賀市内案内（バス、電車）、銀行口座引出・預金

第5日目…近隣施設見学（油壺マリンパーク等）

5. 日本語研修

神奈川県国際水産研修センターでは、日本語研修を全研修員に対し義務づけて実施している。平成元年度後期より実施要領を導入した。

カリキュラムの前半において全日集中講座を約10日間、更にその後2ヶ月から5ヶ月にわたり月、水、金1日2時間の夜間講座を実施している。

到達目標は、技術研修コースの期間等により異なるが、自己紹介、公共交通手段による移動等に支障のない会話を習得させ、日常生活の不便を解消し一層日本の文化、日本人の考え方を理解し、友好を深めることができ、しいては滞日中の技術研修効果を高めることを目標としている。

又、日本語発表会をはじめとして、日本の歌の練習、市内外の教育団体等との交歓会、日本の家庭を訪問するなど多くの行事を盛り込み、日本での生活をよりよいものにするため本講座に力を入れている。

平成2年度の実施要領概要は次のとおり。

実 施 要 領

(1) 集中講座：

11日間 1日2時間（計23時間）漁具漁法学コース

11日間 1日5時間（計47.5時間）漁業協同組合コース

10日間 1日5時間（計45時間）養殖一般コース、沿岸漁業技術コース
小型漁船の船体・機関保守コース

10日間～11日間 1日2時間から5時間（計23時間～47.5時間）

(2) 夜間講座：

10日間 1日2時間（計20時間）漁具漁法学コース

26日間 “ （計52時間）養殖一般コース

28日間 “ （計56時間）小型漁船の船体・機関保守コース

29日間 “ （計58時間）漁業協同組合コース

52日間 “ （計104時間）沿岸漁業技術コース

10日間～52日間 1日2時間（計20時間～104時間）

(3) 日本語発表会：

全研修員参加により講座最終日に実施している。日本語発表テーマは各自選択（自由課題）とし、3分程度にまとめ発表している。

(4) クラス：

各コースごとに編成している。

(5) 日本語参加証書：

集中講座に全て出席し、夜間講座においても大方出席した研修員に対し参加証書を授与している。

(6) 使用テキスト等：

- ・ JICA 技術研修のための日本語（ローマ字版）
- ・ JICA 技術研修のための日本語（ひらがな版）
- ・ 技術研修のための日本語（初級用）
- ・ 使用可能な補助教材（ひらがな練習帳、日本語カセットテープ、辞書（英-和））

(7) 資機材：

当センター所有のOHPプロジェクター、VTR、テープレコーダー等の機器。

(8) 研修実施体制：

当センターが委嘱する日本語講師5名により実施している。

日本語講師一覧表

氏名	性別	最終学歴	日本語教育講習経験	
			センター	通算
高橋 泉	女	津田塾専門学校外国語科	7年	7年
奥山 美和子	女	秋田県立角館高等学校	7年	7年
山口 直子	女	津田塾大学英文科	7年	10年
山本 そのこ	女	慶応大学大学院英米文学	7年	8年
山田 明子	女	清泉女子大学スペイン文学科	2年半	2年半

(平成2年4月現在)

日本語研修実績表

全日集中講座			夜間講座			
コース名	期間	人数	実施日数(時間数)	期間	実施日数(時間数)	合計時間数
継続						
養殖一般コース	平成2年1月22日～2月2日	11名	10日(45.0H)	平成2年2月4日～4月27日	26日(52.0H)	97.0H
小型漁船の船体・機関保守コース	平成2年1月22日～2月2日	9名	10日(45.0H)	平成2年2月4日～4月27日	28日(56.0H)	101.0H
新規						
沿岸漁業技術コース	平成2年5月7日～5月17日	13名	10日(47.5H)	平成2年5月21日～10月31日	52日(104.0H)	151.5H
漁業協同組合コース	平成2年7月17日～7月27日	10名	10日(47.5H)	平成2年7月30日～10月31日	29日(58.0H)	105.5H
漁具漁法学コース	平成3年1月22日～2月2日	8名	11日(23.0H)	平成3年2月4日～3月8日	28日(56.0H)	43.0H
養殖一般コース	平成3年1月22日～2月2日	9名	10日(45.0H)	平成3年2月4日～4月26日	28日(56.0H)	101.0H
小型漁船の船体・機関保守コース	平成3年1月22日～2月2日	10名	11日(23.0H)	平成3年2月4日～4月26日	28日(56.0H)	95.0H

6. 研修員の福利・厚生

(1) 厚生活動、国際交流等

No	実施時期	行事内容	参加コース	参加数	主催者
1	4月12日(木)	親善友好パーティ	費一、小型漁船	60名	三浦ロータリークラブ
2	4月13日(金)	バレーボール大会	“ “	40名	神奈川センター
3	4月13日(金)	JICA新入職員との親善バレーボール大会	“ “	50名	“
4	4月14日(土)	親善サッカー試合	有志	20名	JICAサッカークラブ
5	4月23日(月)	ディスコパーティ	小型漁船、浴漁技	60名	神奈川センター
6	5月18日(金)	富士五湖巡り	費一、小型漁船、浴漁技	45名	“
7	6月5日(火)	小学生との親善交流会	費一、浴漁技	45名	長井小学校
8	7月16日(月)	ディスコパーティ	浴漁技、組合	75名	神奈川センター
9	7月23日(月)	横須賀海まつり	“ “	27名	横須賀市教育委員会
10	8月2日(木)	映画鑑賞会	“ “	30名	神奈川善意通訳者の会
11	8月17日(金)	バレーボール大会	“ “	46名	神奈川センター
12	8月20日(火)	子供会との交流会	“ “	50名	番場町子供会
13	9月8日(土)	JICA杯サッカー大会	有志	10名	JICAサッカークラブ
14	9月14日(金)	東京ディズニーランド見学	浴漁技、組合	30名	神奈川センター
15	9月22日(土)	市民講座受講者との交換会	有志	30名	鎌倉市教育委員会
16	10月6日(土)	JICA杯サッカー大会	有志	28名	JICAサッカークラブ
17	10月11日(木)	親善友好パーティ	浴漁技、組合	60名	三浦ロータリークラブ
18	10月14日(日)	国際ユースキャンプ	有志	17名	国際ユースキャンプ実行委員会
19	10月18日(木)	現・歴センター研修員との交流会	浴漁技、組合	63名	神奈川センター
20	10月19日(金)	みかん祭り	“ “	29名	“
21	10月27日(土)	ホームグジット	有志	12名	湘南国際交流会
22	11月3日(土)	留学生のためのチャリティコンサート	有志	10名	横浜市国際交流を考える市民の会
23	11月15日(木)	小学生との親善交流会	浴漁技、組合	25名	長井小学校
24	11月17日(土)	鎌倉史跡見学	“ “	30名	神奈川善意通訳者の会
25	11月18日(日)	国際親善バレーボール大会	有志	16名	横須賀青年団体連絡協議会
26	11月22日(木)	国際親善パーティ	浴漁技、組合	140名	神奈川センター
27	11月28日(水)	親善友好パーティ	“ “	70名	横須賀みかさライオンズクラブ
28	12月1日(土)	海外開発青年との交流会	“ “	72名	海外移住センター
29	1月21日(月)	ディスコパーティ	費一、小型漁船、漁具	50名	神奈川センター
30	1月31日(木)	映画鑑賞会	“ “ “	35名	神奈川善意通訳者の会
31	2月22日(金)	バレーボール大会	“ “ “	60名	神奈川センター
32	3月16日(土)	鎌倉史跡見学	費一、漁具	33名	神奈川善意通訳者の会
33	3月22日(金)	いちご祭り	費一、小型漁船	25名	神奈川センター
34	3月24日(日)	国際ユースキャンプ	有志	10名	国際ユースキャンプ実行委員会

※ 費一：費用一般コース、小型漁船：小型漁船の船体・機関保守コース、浴漁技：沿岸漁業技術コース、

組合：漁業協同組合コース、漁具：漁具漁法学コース

前表のほか、月平均2～3回程度のサッカー他流試合、ビデオテープ（洋画）の貸出し、その他娯楽用品（ビリヤード）、スポーツ用品（トレーニング機器、卓球、サッカー等）の整備を行った。

研修旅行中の国際交流活動としては、平成2年度は以下のとおり実施した。

① 沿岸漁業技術コース

平成2年6月	宮崎県串間市	串間交流クラブ
平成2年10月	北海道木古内町	木古内高校
平成2年10月	北海道茅部町	南茅部高校

② 漁具漁法学コース

平成3年2月	熊本県熊本市	熊本YMCA
--------	--------	--------

③ 漁業協同組合コース

平成2年9月	北海道別海町	野付中学校
平成2年10月	北海道札幌市	漁業協同組合学校

（職業教育の一環としての「水産教育」授業中に討論会をもち、その後約1時間のバレーボール交流試合を行った。）

(2) 健康管理

週1回の嘱託医による健康相談を通じ、研修員の健康管理に努めたが、腸炎による入院に至った者が1名いた。

(嘱託医による診療科別相談件数)	(入院・手術等)
1. 皮膚、泌尿器科系	33
2. 眼科系	8
3. 耳鼻咽喉科系	3
4. 外科、整形外科系	21
5. 内科（呼吸、消化器）系	64
	1（急性腸炎）
6. 神経（不眠等）科系	1
7. 歯科系	6
8. 婦人科系	2

合 計 138 (件) 1 (件)

7. 関連業務

(1) 帰国研修員のフォローアップ（公開技術セミナー）

セネガル、ナイジェリアの2ヶ国において、沿岸漁業普及、沿岸漁具漁法（実技・理論）、漁業協同組合、小型漁船の船体・機関保守の各コース帰国研修員のフォローアップの一環として、沿岸漁村振興をテーマとした公開技術セミナーを実施した。

1) 団員構成

中井 昭（漁民組織）富士大学 経済学部 教授

元広 輝重（水産加工）鹿児島大学 大学院連合農学研究科 教授

森光 律夫（漁具漁法）(財)国際協力サービスセンター

神奈川国際水産研修センター 研修指導員

三国 成晃（業務調整）神奈川国際水産研修センター 研修室

2) 派遣国及び派遣期間

セネガル、ナイジェリア

平成2年11月17日～平成2年12月3日（17日間）

3) セミナーの概要

今回のセミナーでは、できる限り現場で抱える問題点を講義テーマにとりあげ、また、会場を漁村現地にも設定することにより参加者を漁民にまで広げ、同時に行政官が漁村の現状及び実際の改良普及方法を理解・体験できるよう計画した。

教材として、英語、仏語のテキスト、デモンストレーション用の模型漁具を持参したが、講義は上記趣旨により、特にテキストにとらわれず行われた。また、模型漁具は現地漁業者にも理解しやすく好評であった。

会場は都市部では大学、専門学校に設置され、漁村では公民館、漁業訓練学校等を利用した。

参加者は正式登録は両国共30名程度であり、漁村会場ではいずれも、さらに多数の現地漁業者の参加があった。

参加者に行ったアンケートによる評価では、本セミナーの有効性について高い評価を得た。

4) 帰国研修員の状況

セネガル国、ナイジェリア国の帰国研修員数はそれぞれ8名、28名であり、そのうちセミナーに出席した5名及び8名について、アンケート調査を実施した。

また、セネガル国では、残りの3名の現状について現地の専門家から聞き取り調査を行った。

セネガルでは帰国研修員全員の状況を把握できたが、うち2名が事情により水産関係以外の職業に従事している。

高い研修効果があった例としては、1988年の組合コースの帰国研修員がわが国の無償資金協力で建設されたミシラ漁業センターで、専門家、協力隊とともに零細漁民を対象とした普及活動に従事しており、セネガルの行政官としては非常に少ない現場の普及指導者としてその役割が期待されている。

ナイジェリアでは調査した研修員全員が水産関係に従事しており、特に近年の帰国研修員はコース内容と現在の職務内容が完全に一致している。

5) コース改善への具体的提言

今回のセミナーを通じて、以下の点の必要性を再認識した。

① 途上国の漁業技術改良普及事業の機能強化

- ・ 上級行政官を対象とした水産政策セミナーの新設
- ・ 個別研修員受入れによる専門家（プロジェクト）との連携
- ・ 既存コースでの普及関連科目の充実
- ・ 帰国研修員の積極活用（帰国時報告会、研修教材の公開）

② 漁村振興に不可欠である水産加工（特に漁獲物処理関連）コースの新設

③ 研修効果の大きい視聴覚教材の作成

④ 多種多様な各国の研修ニーズ、レベルに対応するための情報収集整理

(2) 第三国研修支援

南太平洋諸国は島嶼国家であることから海洋開発、特に水産資源の開発に大きな期待をかけている。

大規模漁業では輸出産業として振興するとともに雇用機会の拡大と労働者の所得

の安定を図るようにしており、また沿岸漁業では自給自足経済下にある漁業を貨幣経済の中に転換させ、産業として育成し、自国周辺の沿岸水産資源を有効に利用することによって、国民に水産蛋白食料の安定を図り、併せて輸入水産物の削減を行う努力がなされている。

そこで本研修コースはパプア・ニューギニアをその実施国とし、近隣諸国から水産普及職員を対象に漁業に役立つ実践技術と知識、および関連知識に絞った共通のニーズのあるカリキュラムを設定して、開始当初（昭和59年）より神奈川国際水産研修センターが中心となり、専門家の派遣やカウンターパートの受入れなど行い支援している。

なお、平成2年度の実施概要は次のとおりである。

1) 実施研修科目：

『沿岸漁業開発』

(Regional Training Course in Coastal Fisheries Development)

2) 実施国：パプア・ニューギニア

3) 実施回数：7回目

4) 実施期間：平成2年11月17日～12月14日

5) 主な研修項目：

イ. 漁具漁法一般

ロ. 漁具製作

ハ. 海上実習（立縄、マグロ延縄、ハンドリール漁業等）

ニ. 船外機の保守

6) 参加資格要件

① 漁法一般に関して2年以上の実務経験を有する者。

② 漁業分野で普及業務に従事している者。

③ 40才未満の者。

④ 英語が堪能で健康である者。

7) 割当国：（近隣国13ヶ国）

クック諸島、フィジー、キリバス、マーシャル諸島、ミクロネシア、ナウル、

ニウエ、パラオ、ソロモン諸島、トンガ、トゥヴァル、ヴァヌアツ、西サモア

8) 専門家派遣： 2名

漁具漁法 1名 漁船機関 1名

9) 実施成果：

- ① 小型マグロ延縄漁業、立て縄漁業（樽流し漁法）など南太平洋のどの国にも適する漁具、漁法が具体的な形で紹介され、沿岸零細漁業の指針となった。
- ② 南太平洋での水産教育に関するPNGのStatusが上った。
- ③ 船外機取扱い実習を取り入れた事により当該研修に巾をもたせ、かつ研修内容に興味をもたせた。
- ④ 神奈川国際水産研修センターの帰国研修員が船外機をはじめ多くの科目を受け持った事により、神奈川国際水産研修センターでの研修が有効に活用できた。
- ⑤ これまで積極的に接する事のなかったPNG水産関連機関（水産省、州政府水産局、PNG大学水産学科、国立水産専門学校～NFC等）が第三国研修という一つの目的のため巾広い連帯感が持たれるようになった。
- ⑥ 当該研修も回を重ね7回を終了したが、PNG側の人材も育成され予算措置がとればPNGのみのスタッフでも研修運営可能な段階に入った。
- ⑦ PNGに派遣されている水産関係の青年海外協力隊も部分的に当該研修に参加し、協力隊員自身のブラッシュアップにも貢献している。

第三国研修「沿岸漁業開発」研修員受入実績表

割当国	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	計
1. Papua New Guinea	7	6	8	8	5	6	7	47
(East New Britain)	(2)		(2)	(1)	(1)		(1)	(7)
(West New Britain)	(1)					(1)	(1)	(3)
(Morobe)	(1)		(2)	(2)				(5)
(Western)		(2)		(1)		(1)		(4)
(Gulf)		(2)	(2)					(4)
(Central)			(2)	(1)	(2)	(3)	(2)	(10)
(New Ireland)	(1)	(2)					(2)	(5)
(Oro)			(1)				(1)	(2)
(North Solomon)				(1)				(1)
(Madang)				(1)	(1)			(2)
(East Sepik)				(1)				(1)
(West Sepik)			(1)					(1)
(Manus)					(1)			(1)
(Milne Bay)						(1)		(1)
2. Kiribati	2	1	1	1		1		6
3. Tonga	1	1	1	1				4
4. Western Samoa			1	1				2
5. Solomon Is.	2	1	1	1	1	1	2	9
6. Fiji	1					2	2	5
7. Micronesia		2	1	2	4		2	11
8. Vanuatu	1				1			2
9. Palau Is.		3		1				4
10. Nauru						1	2	3
11. Tuvalu						1	1	2
12. Marshall Is.					1	2		3
13. Cook Is.				1	1	1		3
割当国外								
14. American Samoa			1	2				3
計	14	14	14	18	13	15	16	104
	6ヶ国	6ヶ国	7ヶ国	9ヶ国	6ヶ国	8ヶ国	6ヶ国	

(3) 青年海外協力隊員派遣前技術補完研修

当センターでは、青年海外協力隊員（水産）の派遣前技術研修をも実施している。
平成2年度は4名を受入れた。概要は次のとおり。

No.	氏名	応募職種	研修期間	研修内容	派遣予定国
1	草刈一生	漁具漁法	4/10～8/22	①資源調査に関する 漁具漁法一般 ②沿岸漁業実習	タンザニア
2	亀山純一	船舶機関	5/15～8/22	①小型ディーゼル 及び船外機の保守	PNG
3	成毛克彦	船舶機関	5/15～8/22	①小型ディーゼル 及び船外機の保守	モルディブ
4	湊巧次	船舶機関	9/17～10/17	①小型ディーゼル 及び船外機の保守	エチオピア

(4) 便宜供与・広報

平成2年度は、外務省（個別研修員受入れ実績表参照）によるほか、当センターに次の来訪、視察があった。

① 横須賀市立青葉小学校一行

平成2年8月21日

館内、実習船視察

② 水産統計コース一行 17名

平成2年8月27日

館内、実習船視察、センター概要説明

③ 筑波国際農業研修センター灌漑排水コース研修員 14名

平成2年10月18日

館内、実習船視察、センター概要説明

- ④ 秋田県小坂町教育委員会一行 3名
平成2年10月22日
館内、実習船視察、センター概要説明
- ⑤ 外務省中堅指導者招聘計画一行 3名
平成2年10月23日
館内、実習船視察、センター概要説明
- ⑥ 筑波国際農業研修センター野菜生産コース研修員 15名
平成2年11月14日
館内、実習船視察、センター概要説明
- ⑦ チリ国漁業次官
平成3年2月7日 依頼元：株式会社ニチロ
館内、実習船視察、センター概要説明
- ⑧ 広島県研修コース設計に係る県外調査メンバー一行 5名
平成3年2月14日
館内、実習船視察、センター概要説明
- ⑨ SEAFDEC訓練部ミッション一行 3名
平成3年3月19日
館内、実習船視察、センター概要説明

(5) 視聴覚教材開発

当センターは、昨年度に引き続き視聴覚教材整備費により研修用ビデオ教材を作成した。教材名、及び規格は次のとおり。

- ① FRP及びFRP漁船に関する基礎知識 VHS 上映時間 20分
- ② 結索・漁具製作基礎技術 VHS 上映時間 25分
- ③ 化学分析の基本操作 VHS 上映時間 20分

「FRP及びFRP漁船に関する基礎知識」が一般的内容であるのに対し、「結索・漁具製作基礎技術」「化学分析の基本操作」は当センターで、センターの研修指導員の出演をえて、内容についてはセンターのノウハウを十分活用して製作した。

この成果は、当センターの研修コースに利用するだけでなく、途上国の現場でも教材として活用することが期待される。

なお、製作担当は日本シネセル株式会社。所要経費は約800万円。

8. 施設の管理・運営等

(1) 宿泊管理と実績

神奈川県国際水産研修センターでは、研修員が滞在できる個室は32。

平成2年度は8,836人日で、入館率は73.4%であった(平成元年度は74.1%)。

宿泊利用実績は資料-1のとおり。

平成元年度1月16日付で、横須賀市汐入地区にあるホテルハーバー横須賀と、研修員等の宿泊に関する覚書を取り交したが、平成2年度には個別研修員を中心に、152人日宿泊せしめた。

(2) 施設の管理・運営

東京ビジネスサービス株式会社と建物等管理業務請負契約を締結し、施設の管理・運営にあっている。業務分野はフロント、電気・機械、守衛、清掃、食堂経営である。

(3) 施設の整備

管理費のうち施設費は9,166千円の支出であったが、1件10万円以上の工事は次のとおり。

1) 実習船レーダー修理(ふじ)	142千円
2) 養殖棟エアコン修理	178千円
3) 漁具製作室床修理	137千円
4) 水槽実験室天井扇修理工事	100千円
5) 館内灯具清掃工事	230千円
6) 水槽室シャッターカバー修理工事	128千円
7) 石綿繊維飛散防止工事(機械室)	1,648千円
8) 養殖棟天窓取替工事	620千円
9) 主機関保守整備(ふじ)	1,665千円
10) 主機関保守整備(研修丸)	1,976千円
11) 灯具取替工事	196千円
12) 実習船保守整備(ふじ)	290千円
13) 実習船保守整備(研修丸)	177千円
14) その他(10万円以下)	1,679千円

平成2年度 宿泊利用実績

神奈川県国際水産研修センター

コース名称	人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	単価	宿泊料収入
養殖一般コース	10	300	310	200										810		
小型漁船の船体・機関保守コース	8	240	248	160										648		
沿岸漁業技術コース	12	165	341	338	372	372	360	372	360	156				2,836		
漁業協同組合コース	9				206	279	270	279	259	104				1,397		
漁具漁法学コース	8										144	224	144	512		
養殖一般コース	9										162	252	279	693		
小型漁船の船体・機関保守コース	9										160	252	279	691		
集団合計		705	899	698	578	651	630	651	619	260	466	728	702	7,587	3,500	26,554,500
個別研修員		72	93	79	58	174	174	178	139	69	0	0	0	1,012	3,500	3,542,000
UN研修員	1										18	24	24	66	3,605	237,930
一般その他		11	4	3	2	32	48	11	11	2	17	12	18	171	4,325	739,745
合計		788	996	780	638	833	852	840	769	331	501	764	744	8,836		31,074,175
月別宿泊可能数	33室	990	1,023	990	1,023	1,023	990	1,023	990	1,023	1,023	924	1,023	12,045		
入館率(%)		79.6	97.4	78.8	62.4	81.4	86.2	81.7	79.8	32.4	49.0	82.7	72.7	73.4		
月別宿泊料収入(千円)		2,767	3,489	2,732	2,235	2,942	3,022	2,949	2,701	1,160	1,769	2,686	2,621	31,074		

コース別年度別研修員受入実績

REGION	YEAR																				TOTAL	Ea	GM-1	GM-2	Co	Aq	HE	CFT	FS													
	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80										81	82	83	84	85	86	87	88	89	90			
ASIA	14	12	15	8	15	14	12	11	12	9	9	6	8	16	10	15	12	22	25	16	25	24	23	13	10	13	11	10	9	6	405	184	33	63	80	34	8	0	3			
OCEANIA													1	1	2	2	4	1	4	4	4	4	4	9	4	8	3	7	6	7	6	77	11	31	9	5	1	18	1	1		
AFRICA	2	1	7	1	2	4	4	5	3	6	9	4	5	8	2	5	6	5	6	6	7	10	12	13	17	18	19	20	15	222	67	65	18	28	11	27	5	1				
MIDDLE EAST & EUROPE	2	2		1	3	3	4	3	2	1	1	2	4	2	3	4	5	9	1	2	4	4	8	6	5	8	6	6	103	35	15	13	11	23	5	1	0					
LATIN AMERICA									4	3	4	3	10	9	5	5	6	3	9	10	18	11	13	15	16	15	20	14	15	13	14	14	17	266	62	49	35	40	58	13	6	3
TOTAL	14	16	18	15	18	21	24	22	24	25	26	22	18	30	27	30	34	51	50	48	51	53	61	53	63	54	54	57	56	50	1,073	359	193	138	164	127	71	13	8			

COURSE	YEAR																				TOTAL	Ea	GM-1	GM-2	Co	Aq	HE	CFT	FS																									
	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80										81	82	83	84	85	86	87	88	89	90															
Ea	14	16	18	15	18	21	22	22	24	25	26	22	18	21	17	20	20	20													359																							
GM-1																	18	18	18	18	19	15	17	17	18	16	16			193																								
GM-2															15	13	14	15	8	13	11	10	8	10	11	10			138																									
Co															9	10	10	9	9	8	10	10	12	9	10	11	9	9	10	10	164																							
Aq																	5	7	10	8	8	10	11	8	9	10	8	13	11	9	127																							
HE																																																						
CFT																				7	6	7	7	8	9	8	9	10	7																									
FS																																																						
TOTAL	14	16	18	15	18	21	22	22	24	25	26	22	18	30	27	30	34	51	50	48	51	53	61	53	63	54	54	57	56	50	1,073	359	193	138	164	127	71	13	8															

Ea : Coastal Fisheries Extension Course
 GM-1 : Coastal Fishing Gear & Methods Course-I (Practice)
 GM-2 : Coastal Fishing Gear & Methods Course-II (Theory)
 Co : Fishery Cooperatives Course
 Aq : General Aquaculture Course
 HE : Hull & Engine Maintenance of Small Fishing Boat Course
 CFT : Coastal Fishing Technology Course
 FS : Fishing Science & Technology Course

国別年度別コース別研修員受入実績

NATION	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	TOTAL	Ex	GM-1	GM-2	Co	Aq	HE	CFT	FS										
Bangladesh															1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	18	1		7	6	1	2		1										
Myanmar										1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	22	15	1	3	3															
Cambodia																														1	1																		
China																						2									4	1	1	1															
India															1	1	2														13	8	2		3														
Indonesia															2	2	3	2	5	2											65	43	2	3	11	5													
Korea																						1	2								5			3	2														
Malaysia															2	2	2	2	5	3	4	1	2	1	3	3	2	2	2	52	22	5	11	8	5	1													
Maldives																						1	1	1	1	1	1	1	1	7	2		3																
Pakistan																															9	8																	
Philippines															1	2	1	5	5	2	3	4	6	4	1	2	1	3	3	2	1	60	19	6	12	15	7	1											
Singapore																						2									15	10	3	2															
Sri Lanka																						3	3	4	4	3	2	2	1	1	52	23	4	8	8	7	2												
Thailand																						2	2	3	3	5	2	2	2	2	80	29	9	10	24	7	1												
Vietnam																															2	2																	
TOTAL	14	12	15	8	15	14	12	11	12	9	9	6	8	16	10	15	12	22	25	16	25	24	23	13	10	13	11	10	9	6	405	184	33	63	80	34	8	0	3										

NATION	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	TOTAL	Ex	GM-1	GM-2	Co	Aq	HE	CFT	FS																
Fiji																																																							
Kiribati																																																							
Micronesia																																																							
P. N. G.																																																							
Solomon Is.																																																							
Tonga																																																							
Tuvalu																																																							
Vanuatu																																																							
Western Samoa																																																							
TOTAL																																																							

NATION	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	TOTAL	..Ex	GM-1	GM-2	Co	Aq	HE	CFT	FS						
Benin										1																						6	1	1		2									
Cameroon																										1	1	2	1			5					3	1	1						
Cape Verde																											1					2													
Comoros																							1	2	1	2	3	1	1			11		4	1				6						
Equa Guinea																											1	1	1	1		4													
Ethiopia																																1									1				
Gabon											1	1																				2													
Gambia																			1	1	1	3	2	1	1	2	1	2			15		8	1				5	1						
Ghana													1	1	2	1	1	1							1						9	3	5		1										
Guinea																	2														4		2		1						1				
Guinea Bissau																												1			2		2												
Ivory Coast											2	2																				9		8											
Kenya										1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1							1	1	1	23	14	2	1	6										
Madagascar																															1		1												
Malawi																													1		3						3								
Mauritania																			1	1	1	1	2								6		1	3	1	1									
Mauritius																											1	1	1		3		2					1							
Mozambique																																2		2											
Nigeria	2	1	4	1	2	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	29	19	1		7			2							
Sao Tome & Principe																												3	2	2	3	10		3	1				4	1		1			
Senegal																											1	1	1	1	8		6		2										
Seychelles																															3		3												
Sierra Leone											1															2	1				4		1	1	1							1			
Somalia																								2	1	4	4	3	1		22	3	6	3	5					4					
Sudan																																9		8											
Tanzania																									1	2	3	2	2	1	25	8	6	8	2										
Uganda																															1														
Zaire																															1														
Zambia																																2								1					
TOTAL	2	1	7	1	2	4	5	3	6	9	4	5	8	2	5	8	2	5	6	6	7	10	12	13	17	16	19	20	15	222	67	65	18	28	11	27	5	1							

NATION	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	TOTAL	Ex	GM-1	GM-2	Co	Aq	HE	CFT	FS														
Argentina																						1	1		2	1						5		1	3		1																
Antigua																																																					
Barbados																																																					
Belize																																																					
Bolivia																																																					
Brazil																																																					
Chile																																																					
Colombia																																																					
Costa Rica																																																					
Cuba																																																					
Dominica																																																					
Ecuador																																																					
Grenada																																																					
Guatemala																																																					
Guyana																																																					
Haiti																																																					
Honduras																																																					
Mexico																																																					
Nicaragua																																																					
Panama																																																					
Peru																																																					
St. Christopher																																																					
St. Lucia																																																					
St. Vincent																																																					
Suriname																																																					
Trinidad Tobago																																																					
Venezuela																																																					
Uruguay																																																					
TOTAL																																																					

NATION	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	TOTAL	Ex	GM-1	GM-2	Co	Aq	HE	CFT	FS								
Algeria																		1													1																
Bahrain																			3													3			1		1										
Egypt											2																1	1	1		5				2			3									
Iraq						1																									1																
Iran	2	2		1	1	1	2	2	1	1						1	2	2					4	1	1	1					28	19	3	3	1	2											
Kuwait																									1							1															
Lebanon						1	1	1																							3																
Libya											3																				3				2		1										
Morocco																			2	2			2	2	2	3	1	1			11			3	2	1	5										
Oman											1																				2				1		1										
Qatar																															2								2								
Syria				1											1												1	1	1		6	2		1	1	1									1		
Tunisia																															8			4	1	1										1	
Turkey						1	1	1		1	1	1	4	1	1	2	1	1													21	10		2	1	5	2										
N. Yemen											1																				1																
S. Yemen																												1	1	1		4								2		2					
Portugal																																1															
Yugoslavia																																1															
TOTAL	2	2		2	1	3	3	4	3	2	1	1	2	4	2	3	4	5	9	1	2	4	4	8	6	5	8	6	6	103	35	15	13	11	23	5	1								0		

Ex : Coastal Fisheries Extension Course
 GM-1 : Coastal Fishing Gear & Methods Course-I (Practices)
 GM-2 : Coastal Fishing Gear & Methods Course-II (Theory)
 Co : Fishery Cooperatives Course
 Aq : General Aquaculture Course
 HE : Hull & Engine Maintenance of Small Fishing Boat Course
 CFT : Coastal Fishing Technology Course
 FS : Fishing Science & Technology Course

JICA